

## 事前評価報告書

令和3年9月6日（月）

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	富士の介等の機能性面からの魅力向上	
研究期間	令和4年度 ～ 令和5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.3
2	研究内容の新規性	4.3
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.7
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.0
	<b>総合評点</b>	<b>3.8</b>
[評価所見] 県産養殖魚である「富士の介」やニジマスの栄養的機能の向上を通じてさらに付加価値を高めるとともに、県民の健康促進ならびに関連産業の活性化が期待される。  魚類におけるビタミンDの合成や濃縮に関する知見は少なく、本研究課題により飼料からの摂取や皮膚での生合成の寄与が明らかになるとともに、ビタミンD含有量を上昇させるための効率的な飼育方法と未利用部位の有効活用に関する新規性の高い知見が得られると期待される。  研究を進める過程で、得られた知見をもとにどの程度のビタミンD含量の上昇を目指すのか、そのための養殖条件をどのように検討するのかなど、定量的な目標設定に基づく試験内容の検討を行うことが望ましい。  高い評価を得つつあるブランド魚「富士の介」のさらなる付加価値向上により、県内養殖関連業界にとって重要な成果が期待されるだけでなく、食品（菓子）や観光産業（土産）の活性化、未利用部位の活用による廃棄物の有効利用など多方面への波及効果が期待される。		